

津田玄仙 医案③

一儒。吐血を患う。日々吐すること五合より七八合に至る。一医、童便を投じて先ず其の急を救い、而して犀角地黄湯数服を用いるも寸効なし。或血鬱と為して当归活血湯を用い、或は小建中湯を用うるも更に験なし。

予、桃仁承気湯七八哲を与えて、病失するが如し、此の方を用いる所以は、吐血は胃より出ず。胃は多気多血の府、大黄を以て上逆の勢いを折くなり。